

新型コロナウイルス感染症に関する報告

当院で発生した新型コロナウイルス感染症により、入院患者さんやご家族様、地域住民の皆様、関係機関の皆様には大変なご迷惑とご心配をおかけしました。

当院は、甲賀保健医療圏の感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者さんの入院治療やPCR検査センターの運営等を担ってきました。

2020年12月25日、一般病棟の患者さんにコロナ陽性が判明し、直ちに甲賀保健所に報告するとともに濃厚接触の疑いのある患者さん・職員に検査を開始しました。また当該病棟の厳密な区切り（ゾーニングと言います）を行い、病棟中央のホールでの食事を一切中止しました。当日の検査結果では同じ病棟内で8名の陽性者が判明しましたので、クラスター発生と判定されました。当該病棟への新規入院は停止とし、職員にはマスクとゴーグル、フェイスシールドの常時着用と手指消毒、食事時の独食・黙食の徹底、出勤時のみならず就業中の検温、看護師仮眠室の共有回避などを通達しました。

しかし、翌日以降からは初回検査は陰性であったにもかかわらず、2回目には陽性化する患者さんがみられ始め、以後は発熱など有症状者にはその都度再検査を行うことで事態把握に努めました。

結局、1月9日までに23名の患者さんと4名の職員が陽性となりましたが、当該病棟以外へ広がることはありませんでした。病院全体でも新規入院の患者さんには入院前PCR検査を全員に行うこととし、また面会制限の強化を行うべくご家族様に協力をお願いしました。滋賀県クラスター対策班の視察では、追加すべき対策はなく、有症状者発生の監視継続を、との主旨の見解を頂きました。1月10日以降、当該病棟から2週間の発症者がなかったことから1月25日にクラスター終息と判断致しました。ただし、感染源は特定できなかったとの甲賀保健所の見解でした。

これらの経験をもとに感染防止対策の強化に取り組む矢先に、残念ながら前回と異なる病棟で2回目のクラスターが発生しました。前回よりもさらに厳しい対応をすべく甲賀保健所と県のクラスター対策班の視察と指導により、陽性患者さんの転棟・転院のほか、当該病棟の全看護師と医師の休業、ならびにそこに入入りした他職種スタッフと出入り業者約360名全員のPCR検査を行いました。検査結果は全員陰性でした。しかしながら、その後に欠員補填のため応援に

来た看護師までが感染してしまう事態が生じました。このため県から厚生労働省クラスター班に調査の依頼が行われました。4日間にわたる詳細な調査をしていただきましたが、やはり感染源の特定困難との結論でした。しかし感染拡大要因として①当該病棟の性質上、種々のケアが濃厚なため、患者さんと看護スタッフは密着せざるを得ず、さらにその時間が長い、②スタッフが手薄な夜勤時間帯は多忙なため、感染防護具のわずかな隙間を招き易い、③非常に激しい咳嗽がある場合や、吸入する酸素流量が非常に多いと（COVID-19診療マニュアルには記載されていないが）エアロゾル感染を起こす危険性が生ずるなどの指導を頂きました。これらを受け、処置・ケア別の使用防護具の見直しを行いました。2回目のクラスター発生後は上記のごとく可能な限りの感染拡大防止策を行いましたが、累計8名の患者さん、15名の職員が感染、また感染可能性のための出勤停止者は27名に及びました。ただし、感染は幸い他病棟へ拡がらず、3月10日にクラスター終息と致しました。あらためて、感染された患者さん及びそのご家族様には、大変申し訳なく、陳謝致します。

今後は3度目のクラスター発生はさせてはならない強い危機感を持ち、引き続き感染防止対策をすべての職員に浸透させること、具体的には感染を「持ち込まない」の強化策として、病院玄関で動線を明確に分け、職員だけでなく入場者の手指消毒と体温測定の徹底を行い、軽度でも体調不良があれば出勤停止と即時のPCR/LAMP検査、さらに患者さんのご家族様に対しては、面会のみならず病状説明時などにも制限をお願いするなどの変更を行いました。また、今後感染が疑われる患者さん等が発生した際は遅滞なくPCR検査を広く実施する計画としています。

このように強力な感染予防策を実施しながら、市民の皆様に安心して医療を受けて頂けるよう一層の努力を続けてまいります。

ワクチン接種が普及するまでは、患者さんやご家族様には大変な不自由をおかけする対策となっておりますが、どうぞご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

地方独立行政法人公立甲賀病院
理事長 辻川 知之